特定非営利活動法人
日々黎明塾

「ペット用サプリメント有用性調査報告書」

監修総括：九州大学名誉教授　野本　亀久雄（医学博士）
協賛協力：株式会社　生存環境科学研究所
実施団体：特定非営利活動法人（NPO）日々黎明塾

§１．背景（ペットフード産業の市場）
§２．基本コンセプト及びアンケート調査の目的
§３．QOL調査表（調査対象及び項目）
§４．調査結果（詳細データ）
§５．総合評価（総括）
§６．監修コメントとプロフィール

平成31年3月吉日

§１．背景（ペットフード産業の市場）

１. 第一次ペットブームの出現（1980年代～1990年代）【富士経済】

・犬及び猫など、小動物の飼育を楽しむ等、生活環境及び経済環境が整備され、
その存在はその後、動物に愛着を抱く形に変わった。

・更に、近年は少子化及び成熟社会への進展に伴い、犬、猫等は飼い主にとって
家族同然の存在となった。

２. ペット産業の３大潮流

家族の一員としてとらえる考え方が浸透するにつれ、飼い主はペットにお金や手間を
かけるようになり、関連ビジネスが広がり、ペット産業は飛躍的な発展を遂げている。

・ペットの家族化
独身生活層、高齢者の子離れや単身生活者の増加に伴い、家族の一員としての
存在感が増している。

・ペットの高齢化
１980年代は平均寿命が犬猫は3～4歳であったものから2017年には14～15歳に
迄伸びている。

・健康・安全志向
ペットの食事に対する安心・安全・健康管理への関心の高まりにより、プレミアムフード
として旺盛な需要に支えられ、国産品志向もめばえている。

３. 現状の課題と今後の動向

①ペットフード産業においては多種多様なニーズに対応できる物が増えてきた。
②フードのメーカー数は多いが　ペット用サプリメントについては未成熟である。
③ペットの体重については例えば小型犬から大型犬など大幅に違い目的別の
商品企画が必要となってくる。

４. 市場状況

・ペット関連総市場：　1兆4,720億円（2017年）（矢野経済研究所）

・ペットフード市場：

2015年	2016年	2017年予測
3,041億円	3,111億円	3,135億円

（ 対前年1%↑ ）

・注目市場：　ミルク関連2016年16.6億円。2017年17.4億円（対前年4.8%↑）

§2. 基本コンセプト及びアンケート調査の目的

「人とペットの“真の共生”を目指し、ペットが人に与えてくれる“生きる元気”やペットが元気で長生きできる“心身の健康”」を目指して、調査を開始した。

メーカーや流通が一丸となって情報を発信することにより、笑顔あふれる“ペットとの幸せな暮らし”と“優しい社会”を実現するために、アンケート調査を実施し、その結果を報告する。

・アンケート調査の概要

①調査内容

「ペット用サプリメントの有用性の評価」

②実施期間

平成30年10月 ～平成30年11月

③対象となる顧客及び参加人数

家庭にて犬を飼っている人が対象（参加者：15人，犬：18頭）

④与え方

給与目安量（例えば体重10kg以下のペットは（1．5g～3g）を1日2回に分け、そのままフードに振りかけるか、混ぜて与える。（添付スプーン1回につき1杯約1．5g）

⑤サンプル

今回使用した試食サンプルは、ニュージーランド産の自然生乳から抽出した乳清を濃縮化した免疫グロブリン含有、乳清加工品です。免疫グロブリンは、健康補助食品として摂取することで、抗体自体を腸管内に補給することができ、悪玉菌から身体を守ってくれることが評価されています。

免疫グロブリンは、温度に対して敏感で、空気中の常在菌への高い反応性を持っています。そのため、厳しい条件で管理、生産することが要求されており、これらを解決する高度な技術開発によって、濃縮型ミルクグロブリンは誕生しています。今回アンケートで使用されたものは、粉末乳製品です。

濃縮型ミルクグロブリンが健康食品として、人の健康に寄与した実績が既に評価されていることよって同じ哺乳類の犬や猫の日和見感染症予防と体質改善において、非常に有効な食品と判断されております。NPO日々黎明塾は、濃縮型ミルクグロブリンを選定し、小動物を対象にアンケート調査を実施しました。

§３. QOL調査表−1

①「調査対象の概要」

No	（犬）種類	体重(kg)	年齢
1	ミニチアピンチャー	10	13
2	フレンチブル	12	10
3	雑　種	7	9
4	ミニチュアダックス	4	15
5	ミニチュアダックス	6.5	8
6	ヨーキー	3	15
7	トイプードル	4.5	11
8	ミニチュアダックス	5	3
9	ミニチュアダックス	7	9
10	雑　種	4	11
11	チワワ	2	2
12	チワワ	1.8	7
13	ヨーキー	2.4	2
14	ミニチュアダックス	4.5	15
15	雑　種	12	14
16	チワワ	3	11
17	シェットランドシープドッグ	7	9
18	トイプードル	5.3	8

§３. QOL調査表−2

②「QOL調査項目」

※ペットの状態と思われる所の□にレ印をご記入ください

1、 お客様が飼っているペットの種類と年齢について教えてください。

□犬　□猫　□オス　□メス【年齢（　　才）体重（　　kg）種類（　　）】

2、 食欲が増えましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

3、 抜け毛が改善しましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

4、 毛艶が改善しましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

5、 皮膚のかゆみが改善しましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

6、 便通が改善しましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

7、 目やにが良くなりましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

8、 元気になりましたか？

□ 非常に有効　□ 有効　□ やや有効　□ どちらともいえない

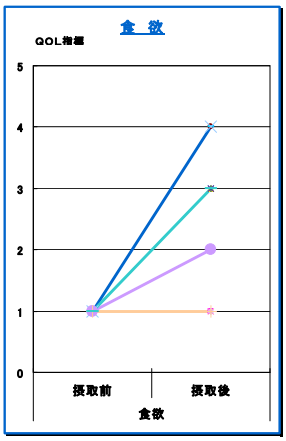
§4.調査結果（詳細データ①）

項目ごとの詳細比較データ①

【食欲】

変化なしが4匹であり、効果があったのは14匹であり、半数以上が改善を体感できている。総合得点でも顕著に改善が見られている。

食欲	
摂取前	摂取後
1	2
1	1
1	3
1	3
1	3
1	4
1	3
1	4
1	4
1	1
1	2
1	2
1	4
1	1
1	2
1	1
1	3
1	3



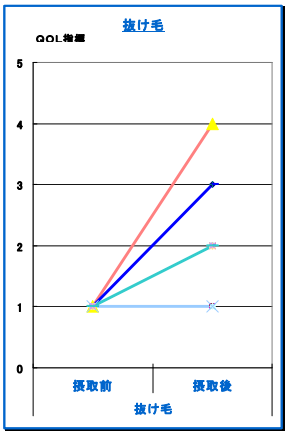
効果あり	14
現状維持	4
効果なし	0

食欲		
有意差	危険率	1%
	QOL総合点	
18	⇒	46

【抜け毛】

顕著は1匹だけだが、その他多数のやや改善が見られている。そのうち、効果が認められたのは13匹あった。変化なしが5匹あった。

抜け毛	
摂取前	摂取後
1	3
1	1
1	4
1	1
1	2
1	1
1	3
1	3
1	2
1	1
1	2
1	2
1	1
1	2
1	2
1	2
1	2
1	2



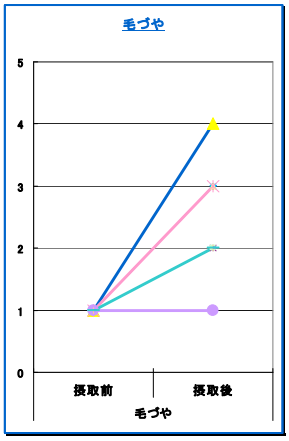
効果あり	13
現状維持	5
効果なし	0

抜け毛		
有意差	危険率	1%
	QOL総合点	
18	⇒	36

【毛づや】

改善効果13匹が出ている。総合得点でも顕著に改善が見られている。

毛づや	
摂取前	摂取後
1	3
1	1
1	4
1	3
1	2
1	1
1	3
1	3
1	3
1	1
1	2
1	3
1	1
1	3
1	1
1	2
1	2
1	2



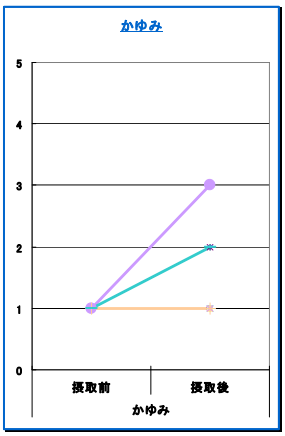
効果あり	13
現状維持	5
効果なし	0

毛づや		
有意差	危険率	1%
	QOL総合点	
18	⇒	40

【かゆみ】

改善傾向があると見られる。かゆみに関しては18匹中9匹に効果が認められた。但し、半数の9匹は変化がなかった。

かゆみ	
摂取前	摂取後
1	3
1	1
1	3
1	1
1	2
1	1
1	2
1	3
1	2
1	1
1	1
1	1
1	1
1	1
1	3
1	1
1	2
1	2



効果あり	9
現状維持	9
効果なし	0

かゆみ		
有意差	危険率	1%
	QOL総合点	
18	⇒	31

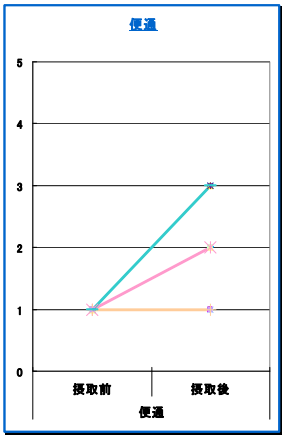
§4.調査結果（詳細データ②）

項目ごとの詳細比較データ②

【便通】

有意差は認められなかったが、改善傾向が認められた。

便通	
摂取前	摂取後
1	3
1	1
1	3
1	3
1	3
1	1
1	1
1	2
1	2
1	1
1	2
1	2
1	1
1	2
1	1
1	1
1	3
1	3



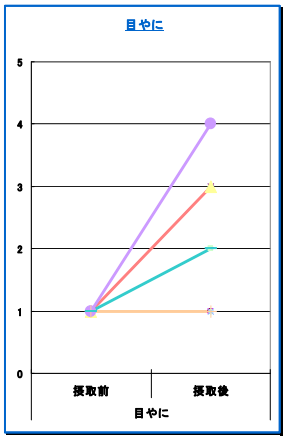
効果あり	11
現状維持	7
効果なし	0

便通		
有意差	危険率	無
	QOL総合点	
18	⇒	35

【目やに】

顕著な効果があり、有意差があり、顕著に改善例が多くの見られている。半数以上の13匹で顕著な効果が出ている。

目やに	
摂取前	摂取後
1	3
1	1
1	4
1	4
1	3
1	1
1	3
1	3
1	4
1	1
1	2
1	3
1	1
1	4
1	4
1	1
1	2
1	2



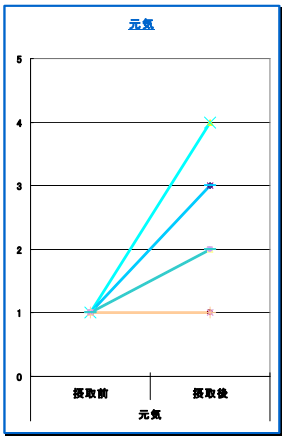
効果あり	13
現状維持	5
効果なし	0

目やに		
有意差	危険率	1%
	QOL総合点	
18	⇒	46

【元気】

半数が改善を体感できている。有意差的も高く、18匹中14匹の約80%に効果が見られた。

元気	
摂取前	摂取後
1	3
1	2
1	4
1	4
1	3
1	1
1	3
1	3
1	3
1	2
1	2
1	2
1	1
1	1
1	2
1	1
1	2
1	2



効果あり	14
現状維持	4
効果なし	0

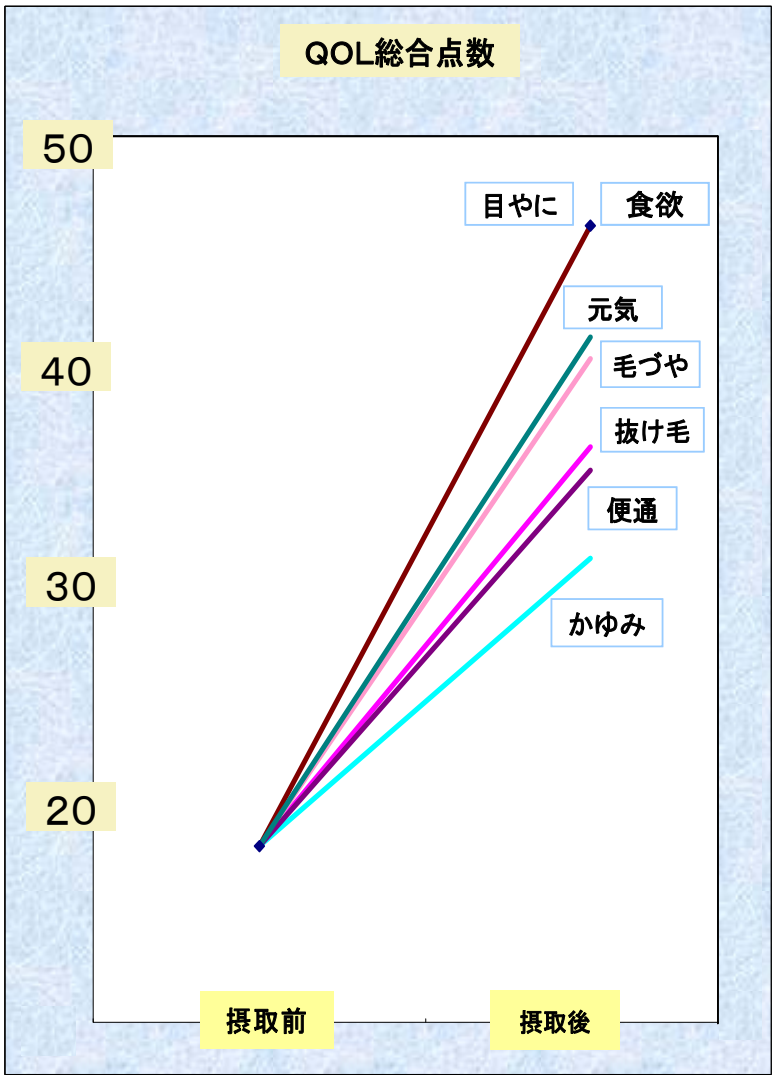
元気		
有意差	危険率	1%
	QOL総合点	
18	⇒	41

§5．総合評価

「総括」

評価した7項目中、全ての項目で顕著に現れている。

図1



※注

表1をグラフで表したものは図１である。
摂取前後の評価点数の差が多い程、改善効果が大きいと言える。

1位：目やに／食欲　28点
2位：元気　23点
3位：毛づや　22点
4位：抜け毛　18点
5位：便通　17点
6位：かゆみ　13点

表1　**評価合計点数:**

項目	摂取前	摂取後	有意差(危険率)
食欲	18	46	1%
抜け毛	18	36	1%
毛づや	18	40	1%
かゆみ	18	31	1%
便通	18	35	有意差を認めず
目やに	18	46	1%
元気	18	41	1%

§6. 監修メッセージとプロフィール

九州大学名誉教授
医学博士　野本亀久雄

メッセージ　Message

成熟社会で、元気で明るく生きるために、
ペットの重要性がますます認識されてきております。

ペットは家族の一員として、
人との“真の共生”が求められます。

人とペットに最も近い、共通した物質の1つに
「免疫グロブリン」というたんぱく質があります。

健康を維持するためには非常に大切な成分です。

この免疫グロブリンを長年研究し、
“真の共生”に役立つサプリメントを開発しました。

プロフィール　Profile

1961年 九州大学医学部卒業
1977年 九州大学医学部癌研免疫学部門教授
1983年 九州大学医学部生体防御医学研究所所長
2000年 九州大学定年退官
日本臓器移植ネットワーク元理事長
九州大学名誉教授

日本医療機能評価機構医療事故対策担当理事
ヒューマンサイエンス財団倫理審査委員長
NPO「日々黎明塾」理事長
我が国の免疫学界のみならず産官医学各界の重
鎮著書多数

【学術論文】
1990～1992，免疫ブロブリンを摂取して腸管免疫を
守る等の多数の論文を発表：九州大学生体防衛医学
研究所、野本亀久雄他

MEMO

MEMO